

試験研究成果普及情報

部門	漁場環境・生産基盤	対象	研究
課題名：三番瀬におけるアオサ類の発生量および分布状況			
<p>[要約] 三番瀬の漁場環境悪化原因の一つであるアオサ類の大量繁茂，腐敗への対策を講じるため，その基礎情報としてアオサ類の発生量や分布状況を調査した。発生量は，多い年には 7,000t 以上，少ない年には 1,000t 以下で，年によって大きく異なることが明らかになった。また，発生期間は 5～11 月までで，ピークは秋であった。分布場所は季節により異なったが，市川市沿岸の岸近くや船橋海浜公園前に大量に堆積することがあった。</p>			
キーワード アオサ，三番瀬，年変動			
実施機関名 東京湾漁業研究所 のり貝類研究室			
実施期間 2004 年度～2006 年度			

[目的及び背景]

アオサは日本各地の沿岸域でしばしば大発生しているが，三番瀬でも毎年アオサ類が大量に発生し，当該海域のアサリ漁業，ノリ養殖業に悪影響を及ぼしている。そこで，三番瀬で大量発生する種を調べると共に，発生量を周年調査し，アオサの消長について時期，場所を明らかにする。

[成果内容]

発生時期は春から夏にかけてアナアオサが主体となり，秋はミナミアオサを中心に繁茂する。これらのアオサが季節的に交代しながら発生するので，長期間にわたってアオサが繁茂する。

アオサの発生量は年変動が大きく，平成 16 年度には最大 900t だったのに対し，平成 17 年度には 7,000t 以上，平成 18 年度は 2,300 t だった。平成 17 年度の例ではアナアオサは夏に 2,000～2,500t に達することがあった。最も大量に繁茂したのはミナミアオサであり，10～12 月に 7,000t 以上の発生量を示した。

アオサは風や波によって浮遊，移動するため分布場所は必ずしも一定しないが，市川市沿岸の岸近くや船橋海浜公園前に大量に堆積することがあった。

アナアオサの初期発生域の一つは，市川側の岸寄り部分であることが考えられる。ミナミアオサの初期発生時期はアナアオサの繁茂時期と重なるため不明確だが，アナアオサよりやや広く，市川側・浦安側の岸寄り部分及び船橋の防泥柵付近であることが考えられる。

[留意事項]

なし

[普及対象地域]

市川市，船橋市

[行政上の措置]

自走式潜水トラクター導入とアオサの回収

[普及状況]

[成果の概要]

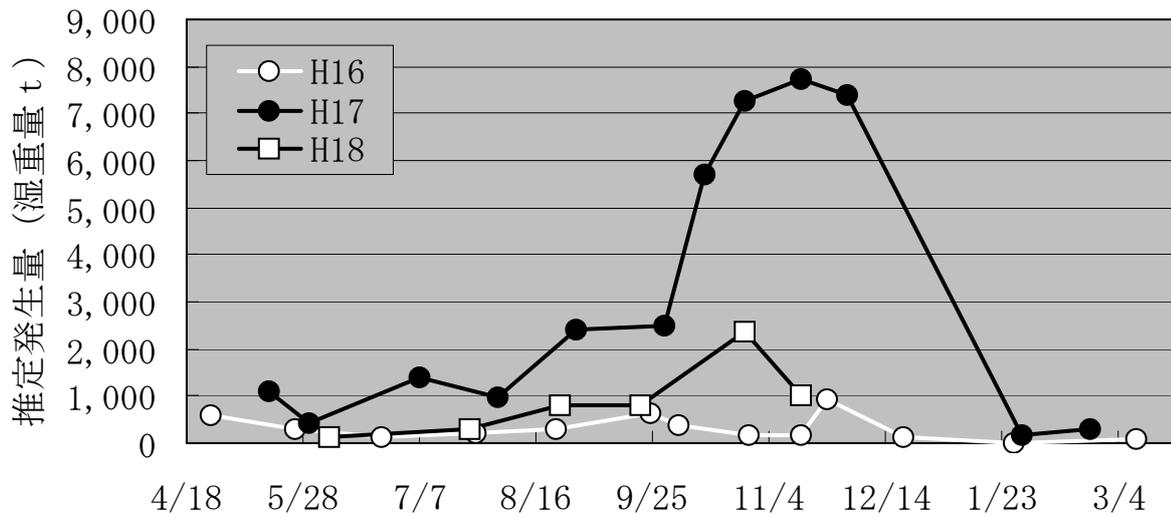


図 平成 16～18 年度の三番瀬調査域内のアオサ推定発生量（湿重量， t）

[発表及び関連文献]

本調査の経過および結果については，三番瀬漁場再生検討委員会で報告した。

[その他]